国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

208
3
726

京山作
豊國画
申春新板

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

明治
45 7. 12
購求

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726
ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

今はむかしなまくらざうしの
ものがたりの山のふかき
所てござ村と孫作と百姓
ありけりつねたろう小むすこをもちける男が馬一疋の
あんどのうれど村のそも人かたてくるくおやの
寺のやれがけくるまのゆるやりやも孫作を
らちえんぶたのくるまのなやうふるひとりの
まえたるうつまのなやうふるひとりの
なすりおやなくうのまをしのまやうと
わらこもむさびとがつ入って十三のてーかまくら
扇かやつのおやーきのつぐ山下女をこんつふいま
づんまもとうれがつやれのゆうくるひとれん
あくてこうるうち物うくるもえりさくるも
つあるうち物うくるもえりさくるも
人まとうれいこうそくもやをれがひまち
ざうまおくそうせけれがいまをれがひまち
ござくのけるかせうとこの孫作をれが人も又
てそのをうもちとこのせうまるくもかうけるお
かまくうのおかおをこうちこうちこうち

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

第四版

世のことぐさをふるうなみだ山川とて我がいる一ことは
ちがひ是山川とてふるうなみだ山川とて我がいる一ことは
るどうなどふるうなみだ山川とて我がいる一ことは
あのひとがたくさん女のすがたをうつくしくかいて
かあのことをあうとするところ作がこれをみて
たゞあくびをしてゐるところ
ゼーとふねりこうこと世おたんん
とありひとりごとをいひながら
うちやめてふとさき村のつち
ふろうさぎるあけり●かくて
あのひがうこそるなすめの小よ
三のそこ孫作やでさく
そのけさこがこ最二代目の一

(二)孫作と名をあらため村のおやまのそこそこにかくれて村のこどもらとあそびくらしけり●さて小うものとりこうさうも

(三)かくてあるのうらうらわたせかも

(四)かくてさるのなつのひとよもすがらもあはれなりけるかのうちのあるじ

(五)

(六)

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

第五段

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文十抄

首書 繪抄

源氏五十四帖

極彩色 小錦繪

右ハ源氏物がたり五十四帖をとらぐ繪が花それ家を附して尤極彩色にあらしたれバ法子極方にうぎたらぬ者國法つゝひものホよハ古今上品の錦繪なり法求め法繪てらゆる

但五十四枚揃 たゞくり入 はお入

御誂染逢山鹿子

六編揃

縁結妹脊双六

うた川 とよ玉画

東都錦繪所
江戸よし町かやぢ橋角
山本平吉梓

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726
ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

春のあけぼの

初ねの下

京山作

豊國画

栄久堂梓

初ねの下

江戸京なり祝ふ三丁目京ぢんやも

▲安政元甲寅年男大あたやく

懐妊門松ありやく 一文五分

けいこ茶ちよくやそこのう

あしこそ辺らのあまうこうさぎ

やのはうらぐ花のとめねうひ上ひ

▲さくまやよ九一分五トニ千れんらのうり

ひうろこのうえのもんとのこと弟一

ニさんのくまうおめをようこそ大人小児

つどのようきん用ひでもやくのめやうえ一分

▲十二味茶のうひとまのあうえ一分

百卅二ぜんらうれとのあれをやうやそ

一分そでほうおのとくいうと白く

かやおあそのうえとる「かやの」あそおふ

まそのうりかえる八世の人のうし

りたぐーけんあそこう

のうふかまうり

たる人いもも老

もえもるふ

うりかうれても

うりかうるる色

これををてうのむ

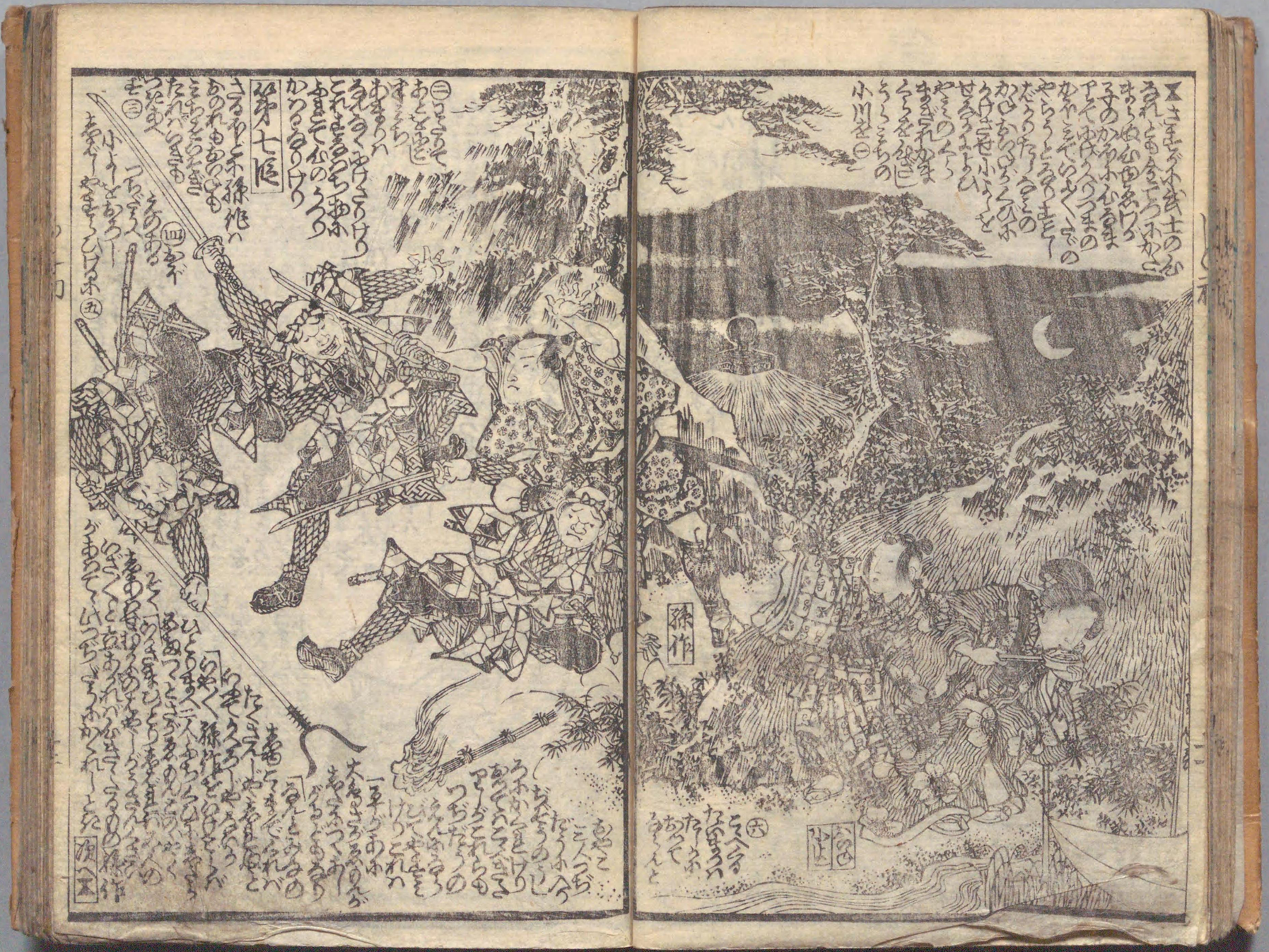
とのふりひいちく

とてこんやの

あうえるるけりのも

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用



国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

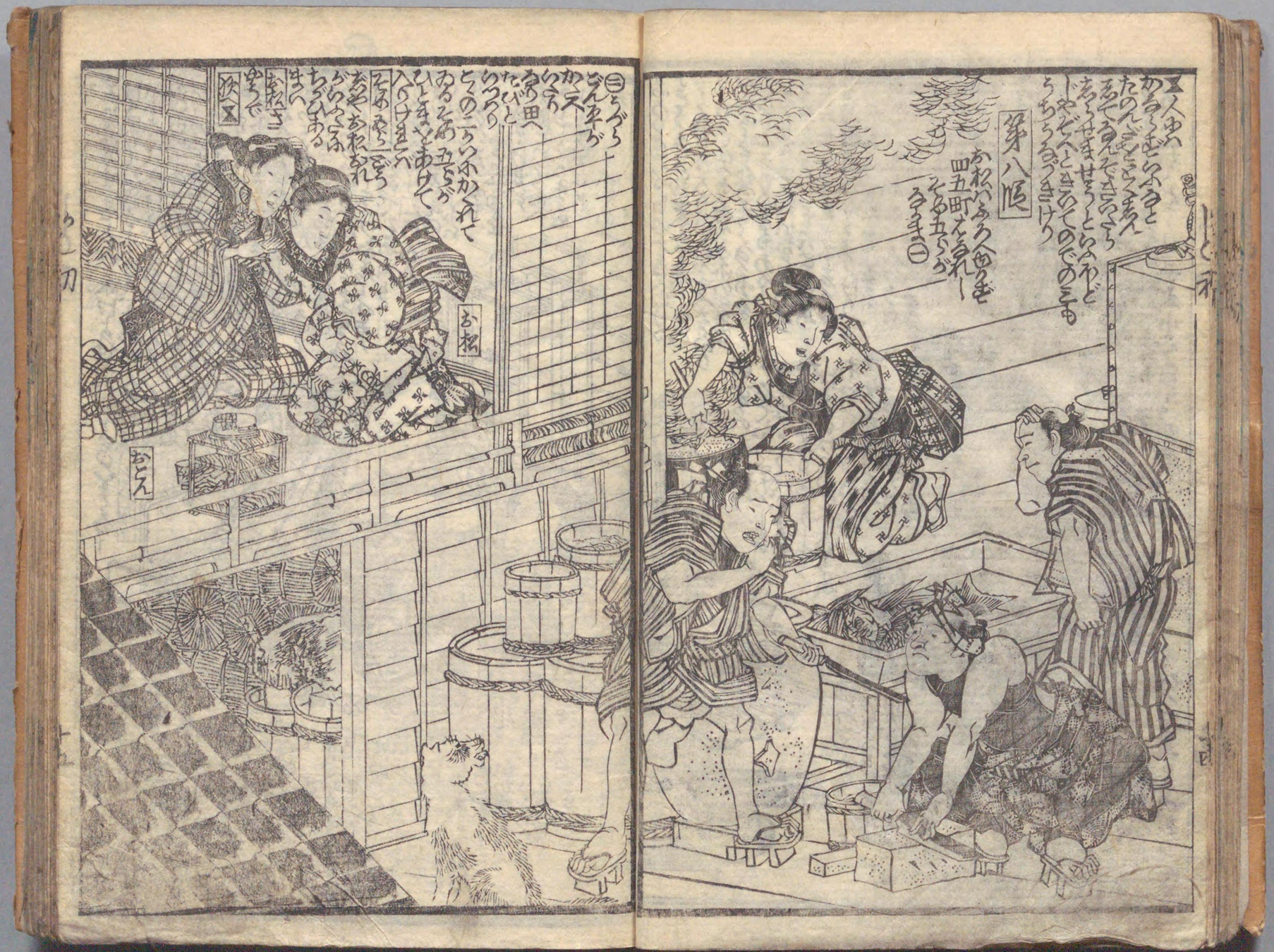
ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用



国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

▼ひさまわげさま子ぶんのさく
んまこくりく　ぐうぐうぜふまそ
やらふとまのみてまふもまえ
うくとそのさうだんを
きそくわけり

●あるそーよりのやけるへ
男どもちろうつまそを
かこねろくんのたまりひ
くまねくくむふりくまる
るみみのようくのやう
るるもあをりくされが
ふもくくれをまく

あーきゆりひを
かぎつけられんーゆもか
らぬやうとすてらきと
ろりーのこそうろうれ
ろりのそろ水ゅもゆふよれべ
ちりー代匁のかまもくぐろうん
つまとうくれー天ぐろうあを
みさもろくせぎれがまてうと
ろりて切目たまくれ我のざ
きへもらでみゆのはゆもへをそ
かーそゆうくたなーひいかうろもむ
べーとそーよりのことだろうべけり

このおとんもえ戸深ろ弁とそ田力を
みぐくゆあ人ふたこくま田ぶりゅ
ひまこのあるの仕　期ごえ人たくそもぐろう
かくふ田男くよりもろぐう地ーのの谷の二戈ゆ
あつこちつまとよの十三をぐうう人のこあよ
つまとうこれこまぐふろうまとうりてつひ
あいうりなーとうりべんのこま死ーて
こもをうけられまーんつまをかこれー天
なろあるゆつぐくをようくそまろべー

●そもく町くあそひとうろうろうろうん
个廿のみくゆそなちまのたみのくちを
ろろんつまぐ名ふかくりくさまくまをろう
つぎものりんのつまぐりひつふでまかく
ゅひとうでいきまのゆでまぎをそのくを
てまぐかくりようくでまろろうそうこと
戸ぐろのつまぐびとうのあねひう
井戸なでそまろんをそまるむう
かくありにや落ちるぐんぐをくうのさう
しふものようぬる白うみのけぬさ
まあうをそまぐう人のづこととるのりの
たとふりうさまぐ个廿せ个廿せげのむ
あそでかろうまくふろれがまろだんのせんさ
みむさあをこびりのりのりゅもろろう
まそあきく人のろっていりひてふうふげんとこのたひを
をうきりのそうとうるのんねどくあとーこおかこさんの

次へ

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

五尺そもそも

かんぎゃ…やと
こうくへ入てくるど
ろのつるかおくて
まろべーこまみる
へらぼのたゝの
をちまうらうまる
るりそのつくちう
ろのほりてこうまみ
てこゝまゆろふらとまを
ひざさうくもあろうそう
そうだのくふつと
おまがまあんも
ようとあいせぎまま
うふつけてそのタイ
そくのつくをちう
むまあくまえのふ
のことようくをむらく
りたらうのまちがひん

㊁ねさあ…まてからうこのまゝのそらでてまるがまくうを
をうまくべくろうちひ
うまそあ
五ふこゝ
ク
こび
れが
ふさ
ひっ
ぎ
てん
うて

此てのこと

あげる
こゝもひっ
そくんでる
しれおんを
ひとうちと
おくて
けまび
んまな

そのあとつゞき

第九段

おこえいなろうとそのみうろうづう
こえ平ぐ二つのふかられてあるとそ
つ西まくぎろり田へえけいと
まりくぶ鬼のるまのせんうふ
ゴぐ々のあうふぎあくこへ
まつくく水もめくるる中の
キふおぢぢちのそこそ貝
此でのことさくむこの
さけもおとくもうつけり
●かくてバッのひやし木へ
お松とそあ五うづひ
あらせあうのにあけてあくの
ざくまそあうづえ平てうづ
ぐちのひくきあけて
あるもお松ぐゑくく
をうちうろぐ此㊀

うつらぐん平

第十段

さるやどふのでのこへおこんをつまてく
十五の時ゝけちまるあちごの糸

ゝけーぐ時
かりゆげてあくるいまざりけり
ゆけさるゆ
つごのてあとをあひ
あこんもこのふ
ゆうもうこざてまちぬけて
のあるのめ
かゝその
みげこち
のどもうれい

よろ
こゝ
そあ
ごを
たまさ
けり

此へ又

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

邯鄲諸國物語 初編八編追出來 九編十編新刻 柳亭種彦作 一陽齋豐國画

菊壽童霞の盃 山東庵京山作 十編新刻 一陽齋豐國画

朧月猫のさうし 山東庵京山作 六編七編 一勇齋國芳画

春のみしの竹紙 山東庵京山作 初編二編新刻 一陽齋豐國画

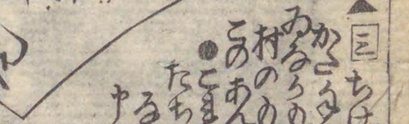
仙女香七變化粧 十返舍後一九作 二編 一陽齋豐國画

竹女一代記 玉蘭齋作 四編 哥川貞秀画

隅田川月姿見 式亭小三馬作 三編 一陽齋豐國画

美艶仙女香 一包四十銅 京橋南傳 馬町二丁目 黒油美玄香 坂本氏製

榮久堂 江戸芳町親仁橋角 山本平吉版



京山作

豐國画

○江戸京だし銀座十丁目

▲極上でおしろい雲のうへいろぎり

▲おしろい夕げ

▲京山てんとく

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

京山作
豐國画
申春新板

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

春秋左氏傳といふは世教の書物なり此書善人を挙て善を勧め悪人を載て悪を懲す悪人も載ざれば悪の悪たるを知るべからず善もまた然り善悪ありて善悪をしらるべきさまが児曹のなぐさめ艸なほたるゝ稗史も悪人を載て悪人の終の凶窮をしめし善人を挙て善人の末の幸福を知らしむあるひは事に準物に附て教訓がましき事をもしるせり心をつけて視玉ひ独楽をまつし紙鳶をあげてかけたしり玉ひんよりは人のひとめはしぢをもしりしんだうのむまがしはしはしもよくしれまたらぬ我しりむりんかし

弘化五年申春新板

山東庵

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

○三美人を田舎娘といふ説

小野の小町は出羽の郡司小野の良実が娘楊貴妃は蜀州の司戸元玉が娘三浦屋の遊女二代目万治のころ高尾は下野の國塩谷郡湯本の塩原村百姓長助が娘夜光の珠も時を得て人間にいづれば由来天下に傳ふ美人もまた然り小町の小町も出羽に枯果るが小町燕脂の名をのこらぎ楊貴妃も蜀に花をちらさば楊貴妃楊の色は賞せずましてや万治の高尾など国にあらば昏庸頑夫の妻となり拙夫に伴まで眠るべきによりて来へられたる由来名妓の名をのこせりこれ夜光の玉の世にいでたるに三美人とは北國の田舎むまとわるり北は阴位なり阴は女に属せ

まだ北国に美人を出せるやあらん北方に佳人あり
ともいへり江河清潔なれば女に佳麗多し
と謝肇淛が五雑俎にいひしも理
水の清き国の女はかならず色白し布
の白も越後の白縮にまさるを
なし其国北なりその地水清
しさまだ多ちごの女は美しと
世にもいふなりこれによりて此ゑ
ざりしにいでしたる小よりをあち
ごの女としのちにしかしとなく
美人なりし事を一部の
趣向とし三美人をあふ
いでして例の口繪のかなり
とぞなりしける

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726
ガラス使用

しん二郎んの上

第一ばん

今はむかしかまくらのころ男をたてる五尺そこそこの五ごうづよおこんそめるおろうろうそこいふおちごろをもとむ村のりのくるま

ゆきたの村をおさめこのそのそのそ雨ぶ

あひそのやとのあんどうをたのこてこまろあんもの

さのわんのるまは大

とうさまをのんおそろ

これる孫作がつま

おいのおすめ小と

とこセッふのうをれ

かまくらへおさこれ

もひさそうそ日をこし

あめおおひそちひ母うの

をあくこうやこひ

おろのえんふこうけ

くるむをきて

おこえふんおいの

あんをのるま

これど女これべて

るけるふのであこと

五尺そこそこの五ごうづよ房おろん

ふとんのちふ

小ようが母おくみ

あるので村のりのくるまこバおの山里でのことをいろのとも当ろまをあるまの初んおくらくあるせろ

○さて里でのこと

おくみおむろい・おあくごろしてこわけでおすめをれ女のあくのごとくおまくへあくのごとくおまくへ

対でするくとおまくへあくのごとくおまくへ

あまくへ十ふの内まそにうこうが村おねえんこと

ゆえおあって、あろごにうこうがあやしどのい村でにまく里でのこと

ちんこうぐ十ふのこうけん

おあつまあさまうのこうあな山川

こうおろとふ人をむとおろひろ子ぐ

てこそこれ目おやぢごうそそ

ら里こ三れくろーやる人であさ

おいろこちの人もおあさあて二代目の

すこ作をそけんあつのでーもあまさあり

人さんゆあたそれまうごうめいもせん

あくまとこうのこのりのあさうさんも

さろあのんがおろ小一平とふおくでくけこ

まんかしそのおこちこちの人をふこころさんと

あこうまうのおろこちの人ハけあてあるこころさんと

にーおやそもおりをまこまあるくをなうふるこ

ゆくのこそこえを三れくそれいはこのとくまあのさのこ

さおこころまそそまとおりうされをおふけまれぬ大

おりひのさまのあくんとのつけふろうくる母さあのふとうくふう

あおろ

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

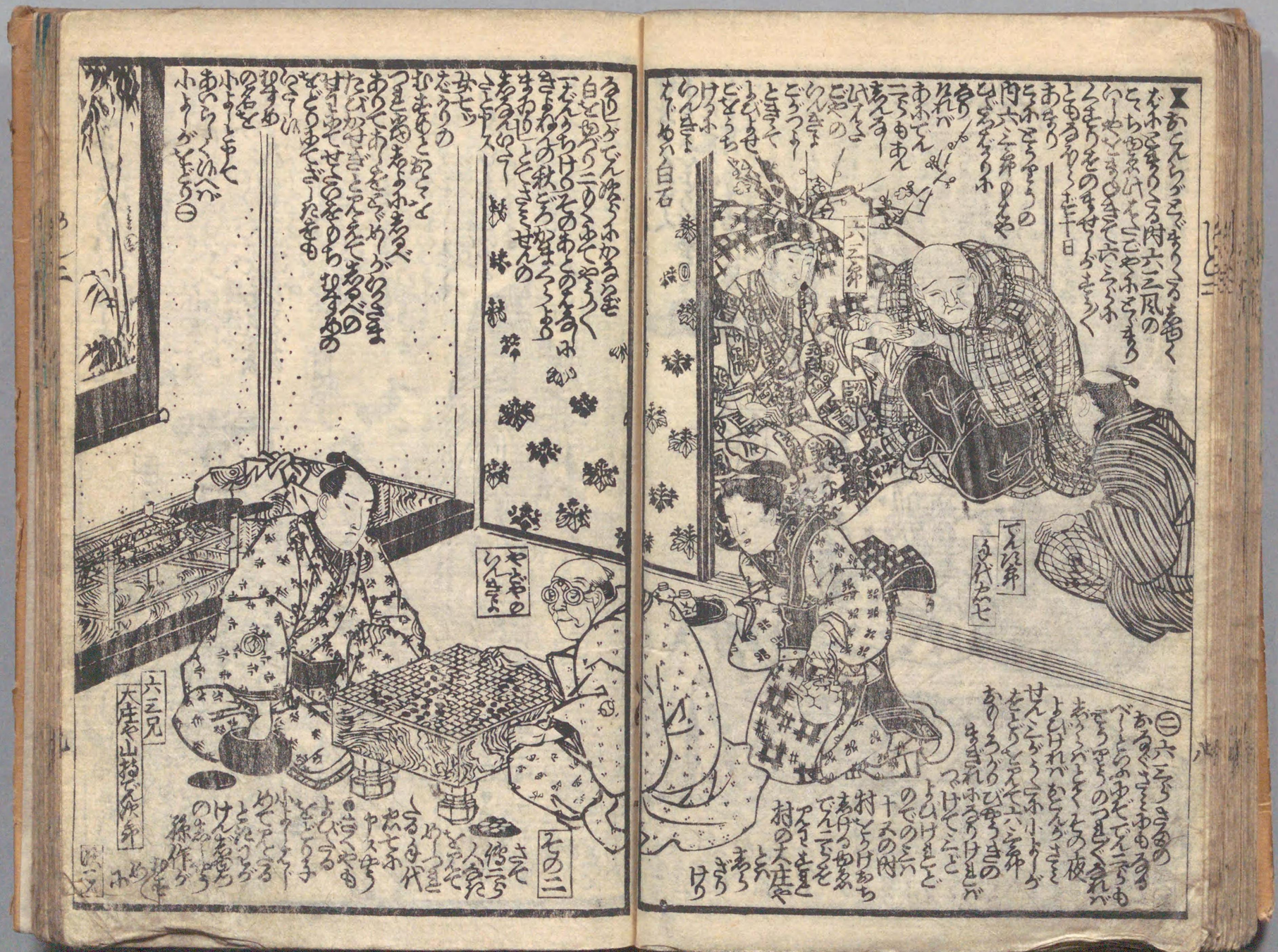
ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用



国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

京山作
豊國画

しめし二へん上のをゆり

大庄や
山のちゃんこう

五代
右七

驛路屋

[illegible]

榮久堂刊行藏板略目

永花百人一首文十抄

首書
繪抄

源氏五十四帖

極彩色
小錦絵

右ハ源氏物がたり五十四帖をとらぐ
く絵ゞ紀それ〳〵を附して尤極彩
色になしたれバ古字極方にうぎてたゞ
奈國古つゝひもの未まハ古今上品の
錦絵なり古来め古絵にてたゞ

但五十四枚揃 たゞたゞ入 はお入

御誂染逢山鹿子

六編揃

[illegible]

縁結妹脊双六

[illegible]

東都錦繪所

江戸よし町かやぢ橋角

山本平吉梓

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

ことまとをさ●てらのひるもでおすろみ●ふくとでめしのどろ（一）

（二）あまとくちそよろいさえくもりで人もかろも出ぬちこうどのふちかでこのごぬらいえぜいごうたうげをこそこそうり用むさろせんきのふもうくぶくそこころされまをでんこうかごの内よりお七をよび●あのかりうど五人のたうげをおろうこれんやあくこいのぞこふそくえんとうけあくとらふおもこのまをらひけれがかりうどやくそでこのぶるうねとりのでんこうかごよりこぶうけ●おろうくがあくえのごとうたうげの下こへこまろくべしまをのおさえあろうくまんやとうとけれがあまをろう（二）

（二）あろうべーとのふそこまるべえ●さてうかそこまるべえやどもたぬきのあろうるうをやくそくえふとの材かごうけり

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

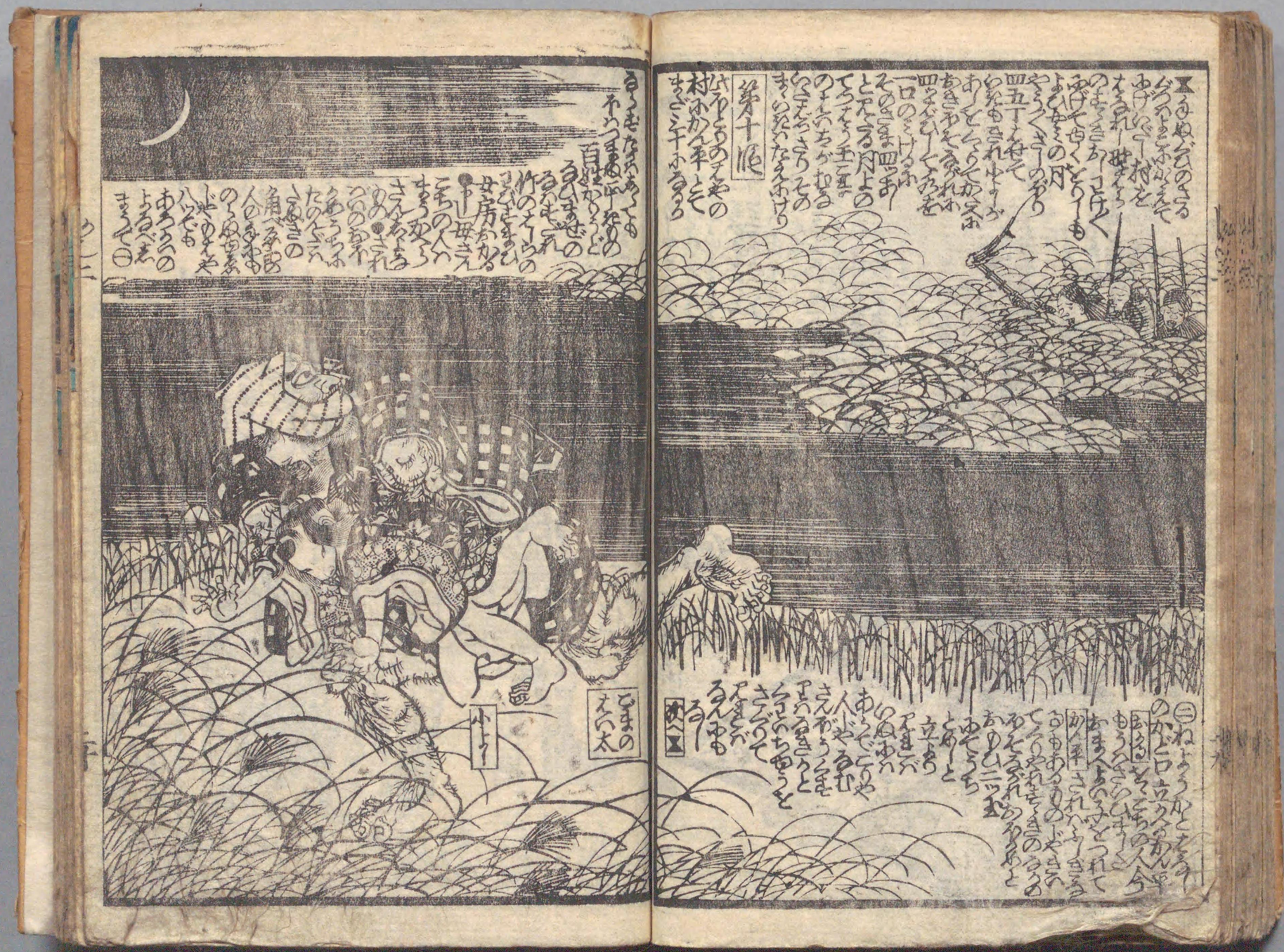
ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用



国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726
ガラス使用

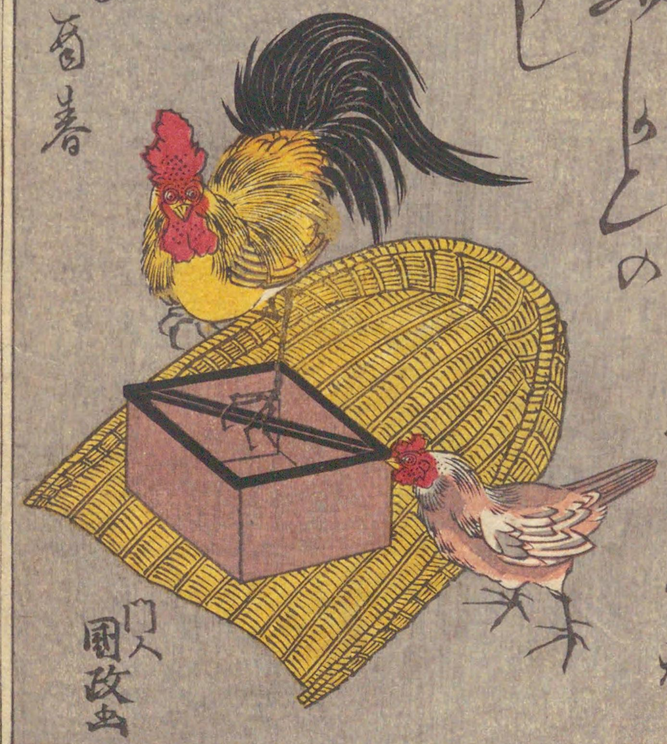
国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

春社無しかしの
さらし
三魚ん
京山作
豊國画
嘉永二年
晋春



栄久堂板
門人 國政画

けきにあらわしたしのさらしのあらそふみやがたふにまつ
せ日ぐらし現にむかひよりあし事をかよはぐやさはといてま
ものして柳乃ゑれとぢまれとしうあねたちの素雨ひぐるに
ぬぐさみ州とれまたるん兄をしも様末のはしとせいふめれど
おとる君のこまそまとぐく茶乃かゆやなきをうやの秋
の風にまつまはなくひなまぐにしきれとぐやかれ
まもおちやすく心あはん人りやみやまゝ様乃ふはくうなるを
いりぐいせん
かきなりはす名を枕乃このみやり
ふりくたどうぬれくきの源
嘉永元年戊申 八十翁
軒にあやめふく日
山東庵京山

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726
ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

小ようがうをたづねてきたるがそれぞれ用あるたちけるがあるひとりのこりてまうすやうはいかにもおまへさまはおとこまへのよいおかたなりとてもおかねもちさまとおみうけまうしますがわたくしはこのとしまでおやもちやうだいもなくまことにこまりはてましたがどうぞおまへさまのおよめさまにしてくださりませとなみだをながしてかきくどくをかるはこれをきいてこれはおもひがけないことをいふおんなだとおもひながらもまたかわいそうにもおもひ

ながらおかるのかほをつくづくとながめてそのうつくしいのにこころをうばはれてしばしはものもいはずにゐたがやうやくにしてわたしはこのとしまでおやもちやうだいもなくまことにこまりはてましたがどうぞおまへさまのおよめさまにしてくださりませとなみだをながしてかきくどくをかるはこれをきいてこれはおもひがけないことをいふおんなだとおもひながらもまたかわいそうにもおもひ

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

そのニ

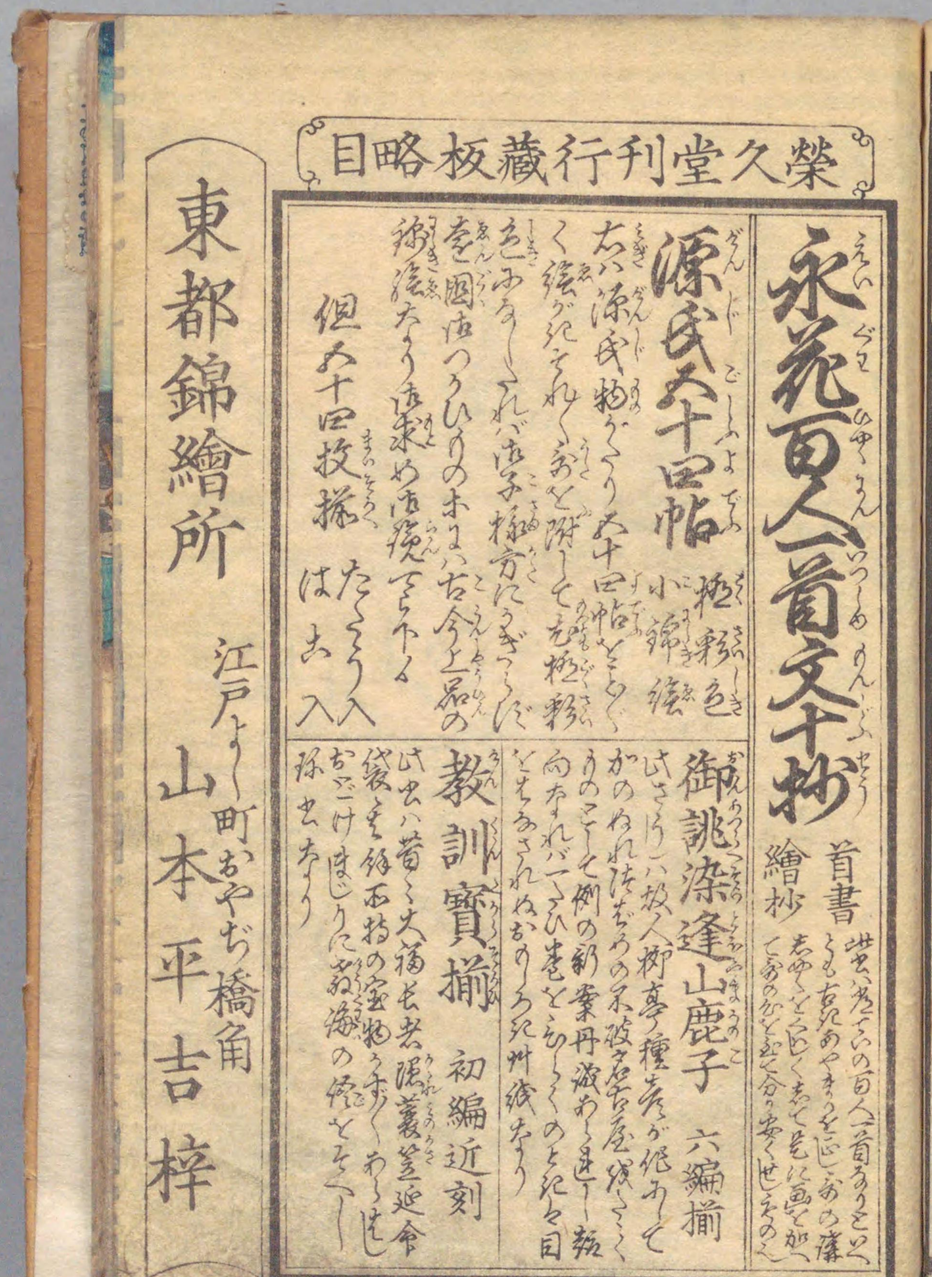
国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

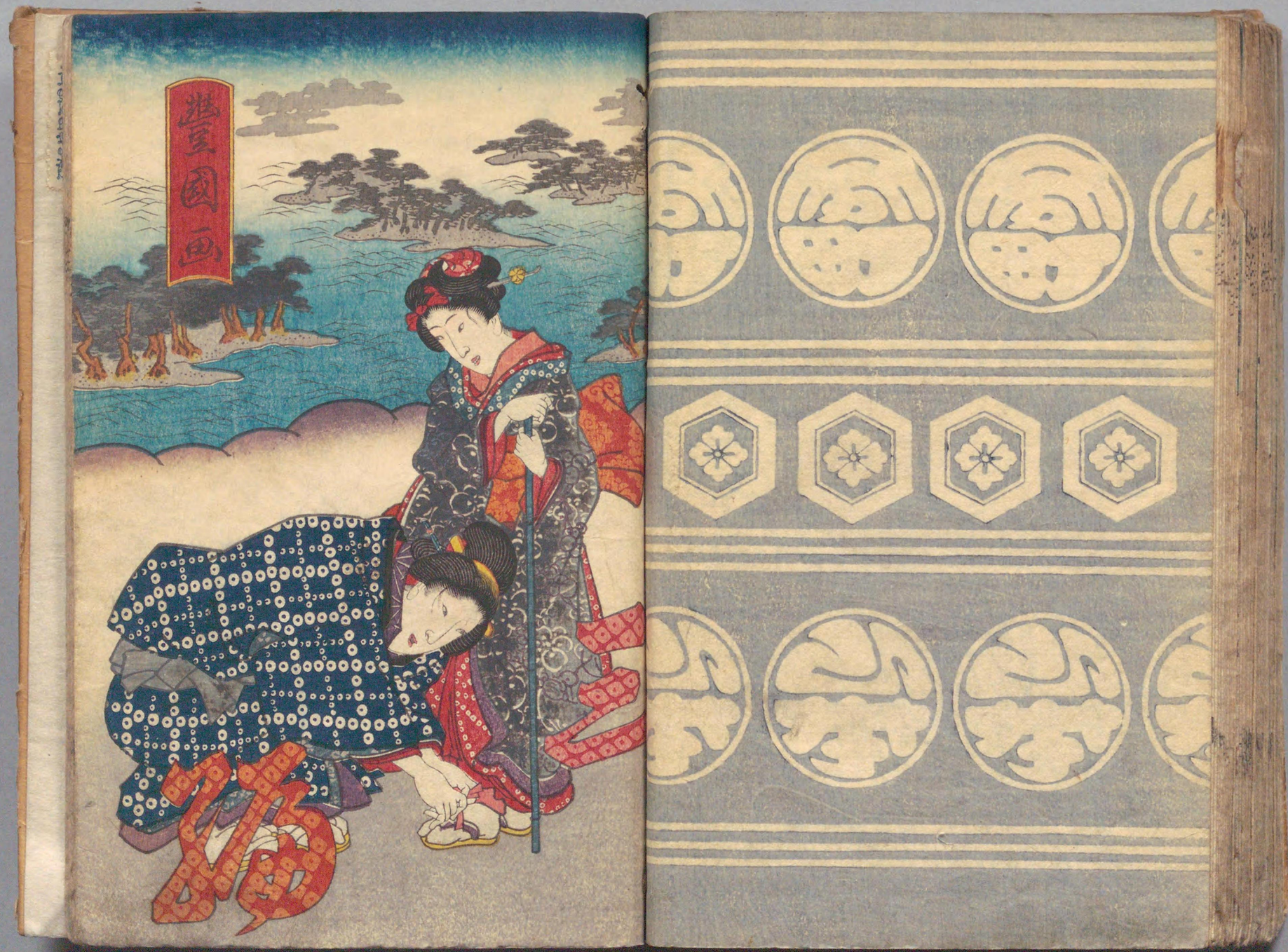
国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

京山作
豊國画


榮久堂刊行藏板略目
永花百人一首文十抄
首書繪抄
源氏六十四帖
桃彩色
小錦絵
御誂染逢山鹿子
六編揃
教訓寶揃
初編近刻
東都錦繪所
江戸よし町おやぢ橋角
山本平吉梓

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726
ガラス使用



国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

人ごみにまぎれるお子ろ小娘どもをさらうやのやどり

「うめくまんぢゅうだァあみちかんねんそくさんかゐ」

「あつく有まつ」

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

[illegible]ろくろくまあせろくろくろくさ
あんざのもさてまつごく今の
ごまなりくいかいようごちふくろふ
ようくのまねこそのむくろひそろ
やすまのの人をのろくごのござ
二ツくらいよくりつくりのござ
●おこん「うえんござる今さそう
男のやうでもわくこ子みて
あのこ子ふからくらとあのろ
さ小よとこそれてん
るびおみござれのそつけ
でおんごぶーそうくそてそり
とあめくふさうごくらせ
ねくいるとそうの山のとうろう
山へたきぎ木の小むすめくち
おこんこまろ日おひきえむふ
ふこそろくそこやうくおくかま
うふこそろごちもくなごよろ
こそろごこまらつせ●こおも
きえちけくねくとお人ちをを
たち一下あまろもそけふ
ねくけくちそなおるとそそ
●おこん「こそふ木やごめく
りのとこそりもごろ時は茶や

(二)子どもい
よそあのあれ
こそろかくえんたまけ
てこ(三)

(四)そのて
みるふよ
こそあの母
とよび
うけこん

(五)

おこん

小ようこ

よりかさうぎり立さる男あと
よろ小むすめ七八人おろる
おこんぶかやこそこかきえんと
うけくる小よう「ろくとひつころ
ひさこよせる目ぎやら舟でのの
こそ右わかさうぎり

(六)うる男の
おろうとこそ
ちそやらう用ごあるぞ

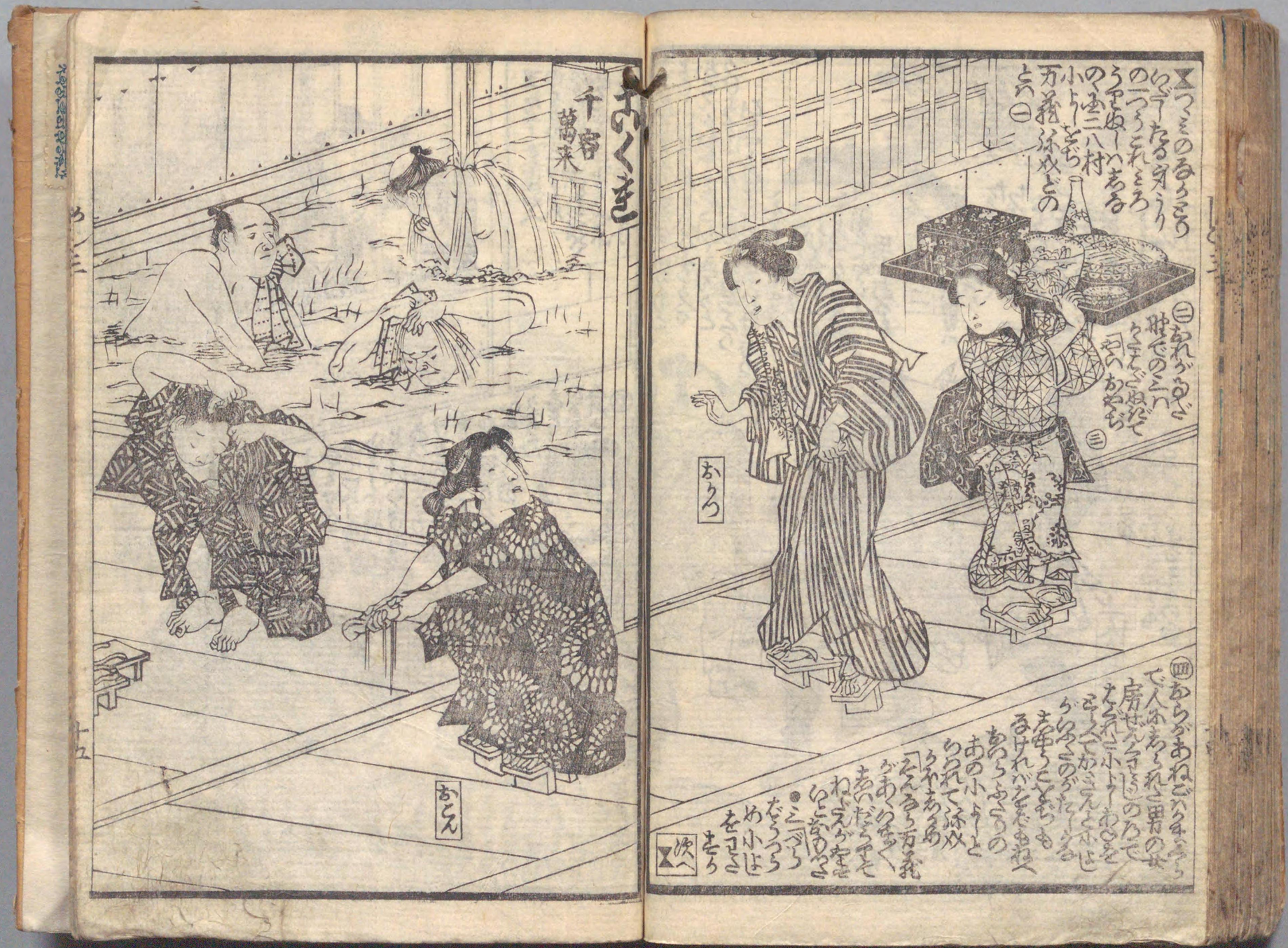
その二
ヤア此男ハ
きちぐじろ
たぐーの又人
ちぐひこむる
ぐうこそこそ
ぐうこまろのぐや
「をくホの左やへ
そひのてもくのぐ
「うえでそびぐのぐや「おれ
こりやかどこ「ほ」ごそれが
かどこうのろてうぐるろうの(一)

人うじ泳ぬ

(七)あれぐあぐ
小よりおれぐ
くりのと母こうう
あおとこう
小よりふ
ろのの又
よろくろのぐ
かどワーとろの
ま「てもこそも
あるめくぐ
のやおるく
ろうまる
まるせやの
かどうりぐ
こうとげたる

のぐのこと

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726
ガラス使用



国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用

208
3
726

邯鄲諸國物語

十編 柳亭種彦作
十一編 一陽齋豊國画

菊壽童霞の盃 山東庵京山作 十編 大尾 一陽齋豊國画

仙女香七變化粧 十返舍後一九作 二編 一陽齋豊國画

朧月猫のさうし 山東庵京山作 七編 大尾 一勇齋國芳画

狙公真實錄 笠亭仙果作 初編 一勇齋國芳画

春の文しきの艸紙 山東庵京山作 三編 四編 一陽齋豊國画

隅田川月姿見 式亭小三馬作 三編 一陽齋豊國画

美艶仙女香 一包四十八銅 京橋南傳 馬町三丁目
黒油美玄香 坂本氏製

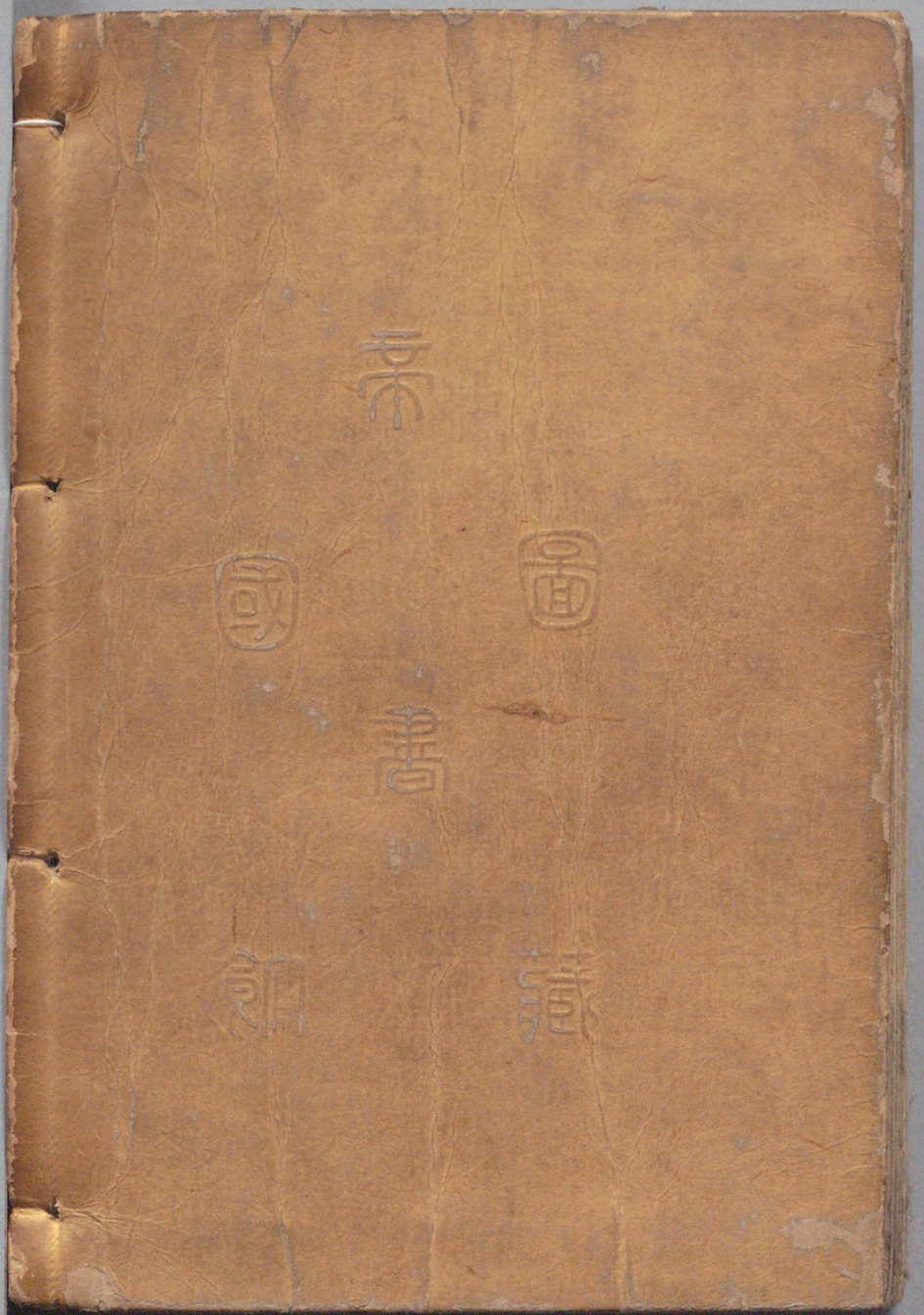
榮久堂 江戸芳町親仁橋角 山本平吉版

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726
ガラス使用

208
3
726

国立国会図書館　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用



国立国会図書館　　春の文かしくの草紙 208-726

ガラス使用